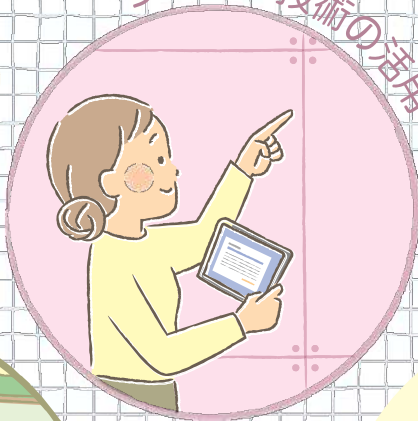


効果的に **安全点検** を 推進するための **ノウハウ集**

専門家の活用



デジタル技術の活用



地域等との連携



文部科学省

この資料について

- 文部科学省では、令和6年3月に「学校における安全点検要領」を作成・公表しました。
- この安全点検要領は、学校の施設・設備等に起因する事故を防止することをねらいに、質の高い実効性のある安全点検を実施するための参考となるよう作成したものです。学校における施設・設備の定期や日常の安全点検に関する標準的な手法や、専門的な知見を取り入れた外部人材等の活用の考え方のほか、先進的な取組事例などを掲載しています。
- 本資料は、安全点検要領の掲載内容をふまえ、次の3つの観点から、取組実施のためのノウハウを、事例をもとにQ&A形式で示したものです。
- 安全点検の効率化・高度化や効果的な事故防止の取組を推進するにあたり、本資料を参考にいただければと思います。

▶ 専門家を活用した安全点検

§1 専門家との連携による安全点検は、どのように進めればよいですか？

➡ P.3～P.5

▶ デジタル技術を活用した安全点検 ～安全点検表のデジタル化～

§2 安全点検表をデジタル化することで、何がかわるのですか？

➡ P.6～P.8

▶ 地域や保護者等と連携した安全点検

§3 地域の人に点検に関わってもらうにはどうしたらよいですか？

➡ P.9～P.12

【関連リンク】

- 学校における安全点検要領（令和6年3月）
<https://anzenkyouiku.mext.go.jp/anzenken/index.html>
- 安全点検方法等の解説動画シリーズ
<https://anzenkyouiku.mext.go.jp/anzenken/index-mv.html>



§ 1

専門家との連携による安全点検は、 どのように進めればよいですか？



身近なところに相談できる先があるかもしれません。
地域の情報を調べて、相談してみましょう。

連携先・連携事例について

- 学校内の安全点検について外部の専門家との連携により進めていく方法があります。一例として、日本スポーツ用品協同組合連合会（通称JSERA）の「**スポーツ用具管理アドバイザー**」による取組について紹介します。

Q1

スポーツ用具管理アドバイザーはどのような人たちですか？



- 「スポーツ用具管理アドバイザー」は、学校等におけるスポーツ用具に関わる事故の低減のために、用具に関する正しい知識の普及等に取り組む日本スポーツ用品協同組合連合会（経済産業大臣認可団体）による制度です。
- アドバイザーとして活動するためには、**原則3年以上の実務経験の上、2日間の講習受講と試験合格**に加え、その後の**更新講習の受講**が必要です。令和6年度現在、全国に約500名のアドバイザー認定者がいます。
- 地域のどのスポーツ用品店がアドバイザーの認定を得ているかは、**日本スポーツ用品協同組合連合会のウェブサイト（<http://www.jsera.jp/advisor>）**から調べることができます。「スポーツ用具の町医者」として、学校や地域のスポーツ愛好者に寄り添って安心を広めていこうとしています。



Q2

安全点検に関して、どのようなことを依頼できるのですか？



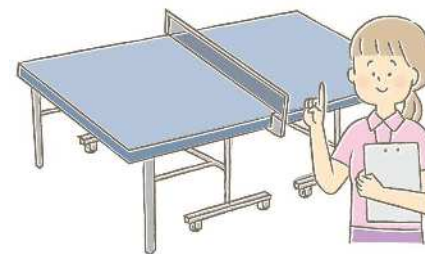
- 「スポーツ用具管理アドバイザー」及びアシスタントが学校を訪問し、学校におけるすべての体育器具の点検を行い、現状の報告と今後の対応を提案します。
- 一般的な規模の小中学校の場合には、体育館内の体育機器備品全て（とび箱関連、マット、バスケットゴール、バレーボール用支柱、バドミントン用支柱、得点板、審判台、ボールカゴ、防球ネット等）及びグラウンド機器備品（サッカーゴール、陸上用品、防球ネット等）の点検を行い、半日程度で終了し、後日点検レポートを提出します。**点検レポート提出と合わせて状況を説明し、問題点があれば改善に向けての助言・相談等**を行います。
- **点検の当日に学校側での特別の対応は不要**ですが、状況を一緒に確認したい場合には、担当の先生にも点検に参加していただくことができます。また、点検の対象となるスポーツ用具について、点検を行う時間帯には使用しないように調整をお願いすることがあります。点検は土曜日等の対応も可能です。

Q3

点検結果をもとに、どのような助言が得られるのでしょうか？



- サッカーゴールのクロスバーとゴールポスト接続ネジの緩み、卓球台のキャスターの欠損、バレーボール用支柱の上部滑車部分の不良などの**事故に繋がりうる不具合等について**、先生方が常に気づくことは難しいかもしれませんが、「スポーツ用具管理アドバイザー」が点検し助言することができます。
- それぞれの用具の**安全な使用・管理方法等について、専門家から助言を得る**ことができます。先生方による管理面に資することに加え、児童生徒への適切な指導にも繋がるのが期待されます。
- 「スポーツ用具管理アドバイザー」の認証を受けた者が納入した機器備品や点検をした機器備品には**点検証シールを貼ることを奨励**しています。点検証シールには**点検履歴等を記入**しており、次回点検の目安になります。



Q4 点検の依頼をしたい場合は、どうすればよいですか？

A

- 学校から直接、または教育委員会より、「スポーツ用器具管理アドバイザー」による点検を希望している旨を、**日本スポーツ用品協同組合連合会ウェブサイトに掲載のアドバイザーが在籍している販売店**にお伝えください。
- 点検にかかる費用については、**一定の規模・範囲について無料で対応**しています。詳細は担当する販売店等によって異なりますので、まずはご相談ください。

Q5 専門家に点検を依頼すれば、事故は防止できるのでしょうか？

A

- 「スポーツ用器具管理アドバイザー」による**点検の想定頻度は2～3年に1回**です。専門家が点検をして改善点に基づいて修理や更新を行い正常な状態になったとしても、何らかの原因で不具合等があることはあり得ます。学校においては、下記のような、用器具の正しい使い方を厳守することが重要です。**日常点検は、授業や部活動等で使用する際に、目視での確認や触診等を行うことが重要です。**
- 一般的な**体育用具の標準耐用年数は用具・機器により異なりますが、3年～7年**です。必ず劣化は起こるため、外見のみの判断ではなく使用年数も考慮したうえで使用する必要があります。
- 事故防止のためには、用器具を使用する際の日常的な意識を高めていくことが重要ですが、これらの意識を高めていくためにも、**専門家との連携は有効**です。

事故防止のポイント

1. 取扱説明書に従った正しい使い方をする。
2. 本来の目的以外には使用しない。
3. ルールに合致した器具を使用する。
4. 少しでも異常がある場合は使用しない。
5. 日常点検、定期点検を行う。

ジャイセラ
日本スポーツ用品協同組合連合会（通称 JSERA）
<http://www.jsera.jp/index.htm>



デジタル技術を活用した安全点検

§2

安全点検表をデジタル化することで、何が変わるのですか？



点検の効率化が図られるだけでなく、意識の向上や継続性・実効性の観点で効果があります。

事例・取組について

- 文部科学省「学校における安全点検要領」（令和6年3月26日公開）では、「教職員の負担軽減に資する安全点検」という観点から、**安全点検のDX化・安全点検表のデジタル化の事例等**（Googleフォームを活用した事例等）を紹介しています。
- 今回は**点検記録のデジタル化**に関する取組を行っている岩沼市立岩沼中学校（及び岩沼市教育委員会）から、取組のポイントや効果について話を伺いました。
- この事例を各学校ですぐに取り入れるために活用できる点検表のサンプルを、**文部科学省「学校における安全点検要領」のサイトで公開**しています。

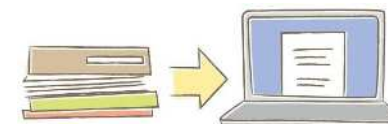
※準備ができ次第公開します（令和7年度当初を予定）

Q6

デジタル化のきっかけは？

A

- 岩沼中学校では、毎月の定期点検を行う箇所（部屋の数等）が75箇所あり、約25名の教職員が分担して安全点検をしています。以前は各担当が結果を記入した紙の点検表を集め、それを安全担当主任が総括表（電子ファイル）に転記し、紙の点検表と総括表をプリントアウトしたものを校長等が決裁していました。
- このような方法では、**安全担当主任にかかる作業負担が大きく**、決裁等プロセスについても**重複した作業が発生**し、余計な手間が発生していました。また、決裁された**紙の保管にも負担**が生じていました。
- こうした負担を軽減するためにデジタル化を図りました。**従来の形式にとられない**ことが重要です。



Q7 具体的にどのような運用をしているのですか？

A

- **Googleスプレッドシートで安全点検表を作成**し、職員用のポータルサイト内から**教職員が同時に同じファイルにアクセス**できるようにしました。
- スプレッドシートには、1-1 教室や理科室、昇降口等といった**箇所別のシート**と、それらの**記入結果が反映される総括表**（箇所別シートの異常を記したセルを関数（イコールで引用）で集計表へ反映されるようにしたもの）を設け、各担当者がタブレット端末等から入力した点検結果が、自動的に総括表に集約されるように設定しました。
- **不良箇所が一覧化**されるようになり、不良箇所があった場合には写真の挿入もできるようにしました。
- 岩沼中学校ではGoogleフォームを用いた運用はしていません。複数の担当者が同じ内容について点検を行う場合にはフォームの活用も効果的ですが、点検箇所によって点検項目が異なる場合や点検箇所が多い場合（岩沼中学校は75箇所ごとに点検項目がある）などには、**機能としてはスプレッドシートの設定をすることのみでも充足**しています。構築も容易です。
- 校内のシステム環境の状況に応じて、Microsoftの**エクセルでも類似のことは実施可能**です。



Q8 デジタル化する上で留意したことはありますか？

A

- 複雑な運用や設定にしまうと、教職員の異動等もある中で継続的な利用が難しくなることも懸念されたことから、紙媒体で運用していた点検表から大きく構成・構造を変更しないようにしました。（岩沼中学校で運用しているスプレッドシートは、校長先生が実質2日間程度の時間で設定等を行ったものです。）
- スプレッドシートへの**アクセス方法や入力方法等について示したマニュアルも作成**をしました。岩沼中学校では各教職員用のタブレット端末が配備されており、その環境をそのまま活用し導入しました。
- デジタル化は業務効率化等に貢献しますが、従来から指摘されている**専門家や子供の目線を取り入れることも引き続き重要**であり、こうした必要性や意義にも留意するようにしています。

Q9 業務負担軽減以外の観点ではどのような効果がありますか？

A

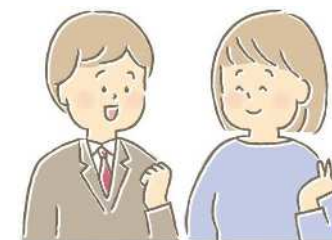
- 従前の紙の点検表を用いた方法では、点検内容や点検結果を踏まえた対応策等について安全担当主任や管理職しか把握をしていませんでしたが、デジタル化により、**全教職員が必要に応じて各活動場所等の状況を把握**できるようになりました。
- これにより、**定期点検を行う各担当者の意識が高まり、点検のマンネリ化を防ぐ**ことにも繋がっています。また、定期点検だけでなく、**普段の生活の中での安全管理に対する意識が高まる効果**も期待されます。
- 点検結果を踏まえた対応について、各点検箇所・内容に対してどのような判断をしたのかを**電子的に記録しておくことで振り返り等ができる**ようになります。
- 修繕が必要と考えられる箇所等があった場合には、該当箇所の写真をそのままスプレッドシートに添付しておくことで、シートのリンクを教育委員会と共有し、**対応をすぐに協議することができる**ようになっており、**点検を踏まえた調整や対応も迅速**になっています。



Q10 その他、実施方法に関する工夫等がありますか？

A

- 岩沼市では市内の学校が共通の点検表を用いており、教職員の異動等の影響を受けづらい体制としています。
- 岩沼中学校では各点検箇所の担当者を定めていますが、**担当者を定期的に変えることも有効**と考えられます。また、子供の目線でない気が付かない危険もあるため、今後、**生徒にも点検に関わってもらう**ということを考えています。



§ 3

地域の人に点検に関わってもらうには どうしたらよいですか？



多様な視点から点検が行われることは効果的です。
無理なく参加できるような工夫が必要です。

事例・取組について

- 文部科学省「学校における安全点検要領」（令和6年3月26日公開）では、「地域や保護者等と連携した安全点検」という観点から、東松島市立赤井南小学校の『『地域住民』の協力を得て実施する安全点検の持続可能な取組』の事例を紹介しています。
- あらためて東松島市立赤井南小学校から、学校運営協議会（コミュニティ・スクール）と運動させた**学校支援ボランティア（安全サポート部会「人財バンク」）の仕組みや、学校支援コーディネーターがどのような活動をしているのか**について話を伺いました。
- 実際に「人財バンク」のメンバーとして安全点検に関わっている方々にもインタビューをしました。

Q11

赤井南小学校ではどのように安全点検を実施していますか？



- 赤井南小学校の安全点検は、毎月、**教員による点検と「人財バンク」による点検**により実施されています。
- 学校では、校内67箇所について20名の教職員が分担して安全点検を実施していますが、**担当場所はローテーション**するようにしています。
- 「人財バンク」による安全点検は、参加人数により2～3班に分かれ、各班が担当する点検場所を決めた上で、点検の視点や項目を限定せず、子供の安全・安心を守るという共通の問題意識のもと、親が子供の目線に立って行うほか、**親の目線、専門家の視点、自身の経験・関心など多様な視点から**行います。実施時間は1時間程度で、班には校長・教頭・主幹教諭が立ち会う形としており、点検結果は教頭がとりまとめます。

Q12

地域の方に点検に関わってもらうことでどのような効果がありましたか？



- 教員とは異なる視点を含めて点検を実施することで、**多様な視点から安全確保を図る**、質の高い安全点検を実現しています。
- 児童も地域の方による安全点検も行われていることを認識しており、学校の安全が**地域の方々の協力によって実現していることへの理解や、日々の安心感の醸成**にもつながっています。
- 教員も点検の場面を目にすることで、安全点検に対する意識が高まっています。

Q13

「人財バンク」にはどのような方が参加されているのですか？



- 令和6年度現在、「人財バンク」安全サポート部会には43名の方が登録されており、各月の点検にはそのうち10名程度の方が参加します。「人財バンク」のメンバーは保護者だけでなく、公募の他、声掛けや人づての紹介などで集まっています。
- **地域で子供を支える、安全を確保する、という意識**で皆さん集まっていますが、活動に参加されているきっかけは様々です。

子供の保護者です。知人に誘われたことがきっかけで参加しています。参観日やイベントの時以外にも、学校や子供の生活に寄り添いたいという思いから参加しています。



退職後に交通指導員となり、活動を通じて子供たちを支援する機会を得ました。活動の中で支援活動の楽しさを実感しており、安全点検にも参加しています。

Q14

「人財バンク」との連携における工夫はありますか？



- 「人財バンク」に**学校支援コーディネーターという役割**を設け、この方が安全点検の業務の効率的な運営を支えています。下記のように、月一回の安全点検の調整、案内、実施のうち、特に**事前段階と事後の共有の役割**を担っています。コーディネーターがいることで、**学校の事務負担は大幅に低下**し、それにより、この仕組みも実務的に機能するようになりました。

事前

- ① 学校とコーディネーターの打ち合わせ（点検の日の調整）
- ② メールや電話による呼びかけ
- ③ 参加者の把握
- ④ 点検箇所の決定と打ち合わせ

当日

- ⑤ 点検箇所の分担
- ⑥ グループに分かれて点検実施・報告・検討

事後

- ⑦ 確認・修繕（用務員、市教委）
- ⑧ 結果の共有（コーディネーターを通じてメールで共有）
- ⑨ その後の対応

Q15

地域の支援・協力を得るにはどうしたらよいですか？

A

- 「人財バンク」は、赤井南小学校の学校運営協議会の運営を支える地域人材の組織です。創設には、学校運営協議会の設立に関わった会長からの地域への声掛け等がありました。
- 大切なことは、「**小さな第一歩から始めること**」です。また、「継続的に協力しないといけない」「必ず参加して責任を果さないといけない」という構えにせず、「**まずは参加してみよう」「参加できる日に協力しよう」「やれる範囲で対応しよう**」という気持ちから参加できるようにすることが重要です。
- 募集に当たっては、掲示をするのみではなく、人へのアプローチ、人との関わり、思いの伝達に着目しました。人と人の輪を広めることにより、「人財バンク」のような仕組みは、どの地域でも実現できると思います。

Q16

持続可能な取組にするためにどのような工夫をしていますか？

A

- **学校・地域の方双方に無理が生じないような形で**、継続性を持って取り組んでいけるように工夫をしています。具体的には以下のような5つに留意しています。

① 毎月実施する

- 学校のありのままを見せる
(特別な準備をしない)
- 無理をしない
(メンバーの都合・学校の状況をふまえ無理強いをしない、参加人数はその時による、欠席の方にも共有する)
- 学校として困っていることを相談する

② マンネリ化を防ぐ

- 点検箇所のローテーション、メンバーの組み合わせを変える、見方や場所を変える工夫
- 子供の目線でみる、子供の意見も聞く

③ 教職員が安全への取組に努めていることの理解を図る

- 教職員と人財バンクの問題意識を重ねる
(取組内容や目線を合わせる)

④ 平日の午前に実施する

- 担任は通常通り授業を行い、安全点検の立ち合いは、校長・教頭・主幹教諭等が主として行う。

⑤ 目的が「児童の安全・安心の場の保障」であることを示す

- 皆で使命感を持って取り組むことに繋がる。

Q17

点検に協力いただく地域の方と、事故防止の点検の視点を共有する方法はありますか？

A

- 文部科学省が作成した「学校における安全点検要領」を参考に、これまで起こった重大事故の教訓を点検に生かしていただけるよう、「人財バンク」の方々と点検の視点を共有の機会を持ちました。
- 参加者からは、「子供が転んだ時に、手洗い場の角にぶつかる危険があること」や「廊下の幅や避難経路に物を置かないこと」など、これまで気付かなかった視点を知ることができたとの感想がありました。

事例 学校の安全点検等に参画するボランティア向け講習の実施

目 的： 地域ぐるみで子供の安全を守る安全体制の構築に向けて、学校の安全点検に参画するボランティアが、事故防止の視点を踏まえた点検に必要な知識等を身に付ける。

対 象： 宮城県東松島市立赤井南小学校
コミュニティ・スクール 安全サポート部会人財バンクのボランティアの皆様

講 師： 文部科学省 男女共同参画共生社会学習・安全課 専門官

内 容： 「学校における安全点検要領」(令和6年3月文部科学省)に示す、学校等におけるこれまでの事故の教訓等を踏まえた安全点検の視点を講義及びフィールドワークで学ぶ。

【参加したボランティアの方々の声】

- ・ 子供が転んだ時に、手洗い場の角にぶつかる危険は気付かなかった視点だった。
- ・ 廊下の幅を教えていただき、避難経路に物を置かないことなど新たな知識が得られ勉強になった。
- ・ 全国でも痛ましい事故が発生していて、今日の話は勉強になり、気が引き締められた。
- ・ 前回大丈夫だったから今回も大丈夫だろうという意識を持たずに、新鮮な目で確認していきたい。 など



令和6年度 学校管理下における事故防止に関する調査研究
～安全点検の高度化・事故データの分析に関する研究～

効果的に安全点検を推進するためのノウハウ集

発行年月 令和7年3月
企画・担当 文部科学省総合教育政策局 男女共同参画共生社会学習・安全課
受託・作成 株式会社 浜銀総合研究所 地域戦略研究部